

リベラルな世界秩序の 終焉？

Date: 2017年1月30日(月): 13:30 – 18:30

Place: 国際基督教大学(ICU)
東ヶ崎潔記念ダイアログハウス (2F)

基調講演者:



ジョン・イケンベリー
(プリンストン大学)



原 帰一
(東京大学)

「自由貿易、多国間主義、同盟、パートナーシップ、民衆的連帯、人権」に基づいた戦後世界秩序の核心原理であるリベラルな国際秩序は危機にあるようだ。中国など非西欧諸国の新政権がアメリカの支配に挑戦する可能性があるなか、ジョン・イケンベリーは「リベラルな国際主義だけが唯一の選択肢である」という原則に危機は迫っていない一方で、権威の危機が存在する可能性を指摘する。

近年増加する、しばしば右派の大衆政治政党、運動、政治指導者たちによる世論への訴えや選挙における勝利は、国内レベルで自由で民主的な規範を損ない、孤立主義を高め、結局はリベラルな国家秩序が弱体化するのではないかという疑問を提起する。これは、我々が知る世界の終わりにつながるのだろうか？ 本シンポジウムでは、こうした挑戦の妥当性について、とりわけ東アジアに着目しながら議論していく。

プログラム ※シンポジウムは全て英語で行われます

13:30 開会の挨拶
Prof. Wilhelm Vosse (SSRI Director)
Prof. Junko Hibiya (ICU President)
Prof. Nina Hasegawa (Sophia University)

13:40 シンポジウムのテーマ説明
Prof. Wilhelm Vosse (SSRI Director)

14:00 基調講演
Prof. John Ikenberry
(Princeton University)

15:15 基調講演
Prof. Kiichi Fujiwara
(University of Tokyo)

16:30 休憩

16:45 基調講演への応答
Can Japan-EU Cooperation Help Sustain
the Liberal Order?
Prof. Paul Midford (NTNU, Norway)

Post-liberal world order in Asia-Pacific
Prof. Thomas Wilkins (Univ. of Sydney)

Post-liberal world order: The economic view
Robin Harding (FT, Tokyo Bureau Chief)

17:30 ラウンド・テーブル
John Ikenberry, Kiichi Fujiwara
Paul Midford, Thomas Wilkins,
Robin Harding
Jae-jung Suh, Wilhelm Vosse

18:30 – 20:00 懇親会